

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301393		
法人名	有限会社インフィニット		
事業所名	グループホームむつ湊苑		
所在地	青森県八戸市湊町字上中道1-11		
自己評価作成日	令和2年12月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の希望に応じた介護支援のほか、買い物・ドライブ・自宅・知人宅・故郷のお祭り等への外出(現在はコロナ禍のため自粛)や、三社大祭・小学校の運動会・公民館まつり・地区敬老会への参加等、地域との繋がりを大切にしている。ホームの予定にご利用者の暮らしを当てはめるのではなく、今まで過ごしてきた当たり前の生活を実現できるように、様々な面からご利用者の必要としている介護支援を提供できるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来町内会に加入して、地域行事に積極的に参加しながら、運営推進会議を通じてホームへの理解を育んでおり、介護相談を受ける関係性を保っている。利用者がその人らしく、健やかに、人と関わる暮らしが続けられるようにとの理念の実現に向け、日々の会話の中から「利用者の声」を聞き取り、「職員が感じた事」を併記した独自の日誌を用いて、アセスメントと介護計画書に活かそうと研鑽を重ねている。また、利用者と家族の目線に立った関わりの追及のため、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーション法を学び日々のケア場面で切磋琢磨している。10年程前から看取り介護の実績を積み、かかりつけ医の往診と訪問看護師による24時間連絡体制を基盤に、看取り介護計画書に基づいたカンファレンスを重ねながら職員一丸となって取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時、全員で理念を唱和して再確認してから業務に入るようにしている。また、会議や勉強会等の場で、理念に沿ったケアができているかを検討している。	理念の重要さを確認して、取り組んでいる。住み慣れた環境で、その人らしい暮らしの継続を目標に、朝夕の申し送り時にケア場面を振り返っている。利用者の声と職員の気づきを日々の日誌に記録して、利用者の思いに寄り添った暮らしの実現を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市場への買い物のほか、近隣のスーパーや公民館の図書館の利用、地区運動会や地域行事に参加している。また、町内会や地域の方に会議に出席していただいている。現在はコロナ禍で自粛している。	開設以来町内会に加入して、地域との関わりが定着している。運動会や公民館文化祭、小中学校との交流等を行っている。現在はコロナ禍で自粛しているため、ホーム内から夏の花火大会を見物したり、移動スーパーを利用した買い物を支援している。一方で、近所の住民からの介護相談が寄せられる等、地域との密接な関係を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの入居申し込みや介護相談に応じている。また、ホーム行事で専門学校の生徒のボランティアや地域の中学校の職場体験等の受入を実施して。現在はコロナ禍で自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、役所や町内会長、地域住民、ご利用者、ご家族に電話や書面で連絡して、会議に出席していただいている。運営状況・行事・取り組み等を報告している。現在はコロナ禍のため書類送付で開催している。	現在、運営推進会議は開催できない状況である。代わりに書面で、ホーム内行事である忘年会や餅つき等の行事や利用者の様子、職員研修や避難訓練の報告、事故報告や身体拘束に関する情報等を報告している。意見書を同封して、意見を聴取している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に自己評価と外部評価結果等を提出している。窓口に行く際には、些細なことでも担当者と直接コミュニケーションを図るよう心掛けている。現在はコロナ禍のため自粛している。	疑問や質問があれば積極的に質問票を送って回答をいただいている。限られた状況でも関係を継続できるように努めている。また、利用者の生活の質の向上のため、社会福祉協議会と連携した支援を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを毎月確認して、ケアに取り組んでいる。玄関は施錠していないが、傾斜が急な階段や車通りが多く、踏切りが近くにある立地のため、ご利用者とご家族に説明をして、ユニットの出入り口とエレベーターを施錠している。入居前に身体拘束防止の説明をして同意を得るほか、定期的にホームでの研修による周知の徹底や発見時のマニュアルを確認して、身体拘束防止に努めている。	「身体拘束適正化の為の指針」とマニュアルを備えており、毎月ユニット会議内の運営適正化委員会で話し合い、定期的な研修も行っている。安全対策上事故防止のため、入居時に利用者家族の了解のもとに、2階と3階の出入り口とエレベーターはオートロック式にしている。看取り介護の実績はあるが、拘束に関わる事例はない。事例発生に備えて説明同意書を用意して、個人ファイルの経過観察記録欄に経過記録を残す体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修会に参加して、具体的な事例等を学んでいる。また、定期的にホームでの研修による周知の徹底やユニット内での会議で、事例検討や発見時のマニュアルを確認して、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行い、参考資料をファイルに綴じて、必要時に確認できるようにしている。全職員の理解の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に基本理念を記した書類を交付している。契約書と重要事項説明書で、サービスの内容等について十分説明している。退居時でもご利用者・ご家族が安心・納得できるような説明をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階に意見箱を設置している。不満・苦情があったときは、苦情処理簿に記入してもらうほか、運営推進会議で取り組みの報告等をして、改善に取り組んでいる。	「利用者の声」と「記録者の気付き」欄を日誌に設け、毎日利用者の思いを細やかに吸い上げ不満の解消に努めている。家族からの苦情は投書に反映され難く面接も叶わないため、電話での密接な情報提供と毎月のたよりで「本人の思い」「健康面」「気になる事」等の欄を設けて共有し、不満や意向を吸い上げるよう心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や毎日の申し送りの際に、運営者・管理者がスタッフと話し合う機会を設けている。また、必要時は管理者と個々に話し合いを行っている。	月1回のユニット会議と役職者会議を実施している。事前に議題を通告して、全職員の意見を吸い上げるよう工夫している。現場スタッフの意見を重要視する姿勢で向き合い、工夫やアイデアを吸い上げようと努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や面談、実績等で評価して、待遇面に反映させれるように努めている。また、ストレスを抱えていないか、普段から話を聴くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修会の年間計画を作成し、実施している。外部研修に参加した場合は、報告や伝達研修を行う機会を作るほか、報告書・資料を各ユニットに保管している。現在はコロナ禍のため、リモート研修の実施を予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が八戸地区グループホーム協議会の理事を務めている。研修会や総会、懇親会等を通して、他ホームとの交流の機会を作る等、積極的に行っている。現在はコロナ禍のため自粛している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談者の思いを十分に傾聴している。入居申込みがあった際は、ご本人と直接面談して、ニーズを把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者の思いを十分に傾聴している。入居申込みがあった際は、ご本人と直接面談して、ニーズを把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込みがあった際は、ご家族と面談して十分に現状を聴き、ニーズを把握するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の思いに共感して、ご利用者の暮らしを実現するうえで、できることややることを見極め、協力していただいたりとお方的な支援にならないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・電話・手紙にて、随時、ご利用者の状態を報告・相談している。現在はコロナ禍の為、面会は自粛していただいている。通院前後や、ケアプラン作成時の意向確認など、必ずご連絡し、介護サービス計画アセスメント実施時の意向確認をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や住んでいた地域や馴染みの人等との付き合いを継続できるように、連絡調整や付き添い支援をしている。現在はコロナ禍のため、面会を自粛していただいている。	利用者の言葉に耳を傾けて毎日記録している。大切な思い出や懐かしい人との関わりを発見しようと努めており、声が聞きたいという思いには通話支援を増やしたり、朝市の買い物スタッフが行う等している。介護計画に組み入れながら馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分でできることは行っていたき、ご利用者同士で作業や家事ができるようにしている。また、関係性が築けるように声掛けや仲介する等の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も介護の相談を受けたり、納涼祭・花火大会等のホーム行事に参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、ご利用者の声を記録して、日々のサービス・ケアプランに活かしている。そのためにも、当たり前ではあるがまずは話を聴くことを意識している。	利用者との会話の中にある特別な思い出や大切な記憶、思い等を汲み取ろうと、日誌に「利用者の声」欄を設けて情報を記録している。また、「記録者の気付き」欄で職員間の共有を図っている。同時に新たなコミュニケーション技法を取り入れた介護法に取り組み、日々研鑽を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供者や生活歴等を参考にしている。面会時にご家族からの情報をもとに、入居前の生活の把握に努め、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の生活習慣をできる限り変えないようにしている。ホームの生活時間に当てはめるのではなく、本人の生活リズムを把握して支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族からの意向や要望のほか、全職員が意見を出し合って作成している。また、アセスメントやモニタリング、3ヶ月毎の評価や見直しを行っている。ご利用者の状態変化時も見直しを行っている。	3ヶ月毎に評価を行い、利用者との会話や様子から思いを汲み取り、家族の意向を取り入れた計画書の素案が、ユニット会議に図られている。その後、家族に確認をしていただいている。日誌に記録した利用者の声を積み上げて、個別で個性が垣間見える計画書を目標に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護計画の実施状況・スタッフの気づきやアイデア、ご利用者の声を個別に記録している。特記事項は、日誌や申し送りボードに記入して、全職員で共有し、介護計画に反映している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制の導入や、受診の送迎、外出支援を実施している。外出支援はコロナ禍の為、自粛していただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に出展する作品作り等に取り組んでいる。町内会長には運営推進会議に協力していただいているほか、地域の小中学校・保育園と交流していたが、現在はコロナ禍のため自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、協力医療機関の医師による往診をしていただいている。ご利用者・ご家族の希望を尊重して主治医を決定している。通院もご家族と連携し、付き添い支援をしている。	総合病院に通院中の利用者以外は、2週間毎に往診する協力病院医師をかかりつけ医としており、家族と連携しながら認知症専門医や歯科、眼科等の受診付き添い支援を行っている。往診前にかかりつけ医に健康情報を提供したり、家族宛のたよりに「健康面」のお知らせ欄を設けて定期受診の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が月1回訪問採血に来所する。その他、医療連携を行っている訪問看護による体調管理や看取りの協力等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は必ず付き添い、病院関係者に情報提供している。また、入院中もご家族・病院と連絡を取り合い、早期退院に向けた支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明と話し合いを行っている。また、重度化した場合は早期にご家族様と共に、主治医から病状の説明を受け、今後の生活について相談する機会を設けている。	看取り介護の経験があり、入居時に指針を示して家族の意向を確認している。終末期を迎えた時点で、かかりつけ医の往診と訪問看護師による24時間連絡体制を基盤に看取り介護計画に沿って、週1回以上家族との綿密な意思疎通を図っている。職員は定期的なカンファレンスを持ちながら日々の体調変化を察知できるように、日々研鑽を重ねている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内外で定期的な心肺蘇生法・気道閉塞時の応急手当訓練を受けている。急変時対応マニュアルを全スタッフが毎月確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の避難誘導訓練のほか、夜勤者1名を想定して訓練を行っている。ご利用者にも参加していただき、火災時の訓練を定期的に行っている。非常用の食料・物品等を備蓄している。	生活空間が2、3階にあるため、年2回の火災避難訓練のほかに毎月のユニット会議で担架の使い方や避難経路の確認等を想定した誘導訓練を続けている。飲料水や缶詰、米やレトルト食品、ラーメン等は3日分程を備蓄し、リストにより賞味期限の確認を行い、ポータブルトイレ5台の利用も計画している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前の生活習慣を変えなくても生活できるように支援することが尊厳を守るケアにつながると考えて支援している。記録書類等は、職員休憩室で施錠して管理している。	10年程前から、「知覚・感情・言語」による包括的コミュニケーション技法を取り入れて日々のケアを実践しており、利用者と分かり合える関係を築こうと前向きに取り組んでいる。利用者が、複雑な思いを抱えて乗り越えてきた半生と人となりを知ろうという思いを胸に研修と実践を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定を促す場面を積極的に作り、ご利用者の意思や表情を確認しながら声掛けし、支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画・週間予定表を基本としているが、ご利用者一人ひとりの希望や体調に応じて、日課を変更しながら、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みで服を選んでいただくために、声掛け支援をしている。また、行事では浴衣やお洒落な洋服を着用する等の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや苦手なものを把握して、家庭的な献立になるようにしている。ご利用者にも一緒に作っていただいている。季節や行事の際もメニューにこだわって提供している。	嗜好や苦手な物、持病で摂取できない食品を把握している。栄養管理委員会が定期的にカロリー計算を行っている。利用者も食器拭き等、できる範囲で職員と一緒に支度や片付けを行っている。食材もネット販売を利用する状況であるが、介助の必要な利用者のサポートをしながら職員も同じ食事を一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を毎日記録している。栄養管理委員会が毎月、およその摂取カロリーを計算して、メニューのバランス等について会議で話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態や能力に応じて歯みがきの支援をしている。自力で行えるご利用者には、自尊心に配慮して行っている。外部研修等で知識向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、できる限りトイレで排泄できるように支援している。失禁時は、羞恥心に配慮して、速やかに支援している。おむつ使用は極力避けるように介護計画作成時等に検討している。	排泄チェック表でリズムを把握しており、トイレで排泄できるように支援している。できることは見守る姿勢で、相応しい声掛けや誘導支援を行っている。介護計画で経過観察を行い、入居時に比べてオムツ使用が軽減される傾向にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や体を動かす、水分を勧める、トイレ誘導等の支援をして、できる限り下剤に頼らないよう取り組んでいる。必要に応じて、医師や薬剤師に相談して内服薬で調整する場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は午前中に行っているが、ご利用者の体調や意思に合わせて、日にちや時間を変更する等、できる限りご利用者の希望を聞いて支援している。その他、清潔だけを目的とするのではなく、入浴剤を日替わりで変えたり、入浴中もコミュニケーションをとる等して、安全かつ楽しんでいただけるように努めている。	体調や受診外出を考慮しながら週2回の入浴を支援している。マンツーマンで職員との会話やスキンシップを大切に、安全で楽しい時間を過ごせるように心掛けている。入居時に拒否があり、半年に1回しか入らなかった利用者もいたが、計画書に取り上げつつ誘導に工夫を重ねながら、今では週1回の入浴ができるようになってきている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に縛られないように、いつでも休めるようにしている。夜間も睡眠状況を把握しており、不眠傾向の方には安易に薬剤に頼らず、生活全体を見直すように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量の一覧表を作って確認している。飲み忘れや誤薬がないように、チェック体制を何重にもする等、マニュアルで厳重な確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・調理・片付け・余暇活動等の際に、一人ひとりの力を活かした役割を持てるように支援している。トランプ・習字・買い物・ドライブ等で楽しみながら気分転換できるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護サービス計画へ外出支援を組み入れ、それ以外でも、毎週の買い物・ドライブ・地域行事など、できる限り、外出の機会を多くもてるよう支援していたが、現在はコロナ禍のため、自粛していただいている。	コロナ禍で受診以外の外出が困難となっており、恒例行事であったお花見やドライブ、朝市での買い物や外食ができていない。代わりに、ホームの窓から花火大会を見物したり、朝市での買い物を職員が代行する等の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理して、必要に応じていつでも使えるよう支援している。また、能力や希望に応じて、職員の支援により自己管理しているご利用者もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	介護計画や要望に応じて、電話をする支援をして、ご家族の声を聞き、安心している。現在はコロナ禍で面会を自粛しているため、特に電話でのやり取りを頻繁にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境美化委員会を中心に、ホーム内に季節を感じることができるような草花や木等を飾っている。現在はコロナ禍のため、消毒・除菌・換気等に今まで以上に取り組んでいる。	季節感をホーム内で味わえるように行事を計画して、クリスマスツリーや餅つき等を行っている。西日の当るホールの窓はカーテンで日射しを調整して、ホールには加湿器を置き、各居室は温湿度計で管理している。車いすが入りやすい食堂テーブルや低めのソファを設置する等して、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士で座っていただくように配慮している。他の階のご利用者とも交流できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族に説明して、馴染みのものを持ち込んでいただいている。また、入居後の写真や手作り作品等を掲示して、居心地よく過ごせるようにしている。	家族に利用者の使い慣れた身近な物の持ち込みをすすめている。寝具やお気に入りのぬいぐるみ等の持ち込みのほか、小さな仏壇を置いている利用者がいる。担当職員の配慮でオムツ類を目隠しで覆ったり、利用者の作品を掲示する等している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全廊下に手すりを設置している。また、全居室・トイレ等にナースコールを設置している。ベッド柵や必要のない手すりは撤去している。		